



～農業振興を通じて地域社会へ貢献～



JALとJAきたそらちが連携し、JAL客室乗務員の「ふるさと応援隊」による農業体験が行われた。

→記事の詳細は7ページ

JAきたそらちでは、
ホームページとFacebookで、
魅力満載の情報を発信中です！
ぜひ、ご覧ください！

ホームページ



Facebookもチェック 



目次

- 令和3年度「JAきたそらち地域農業応援団」を開催・・・2
- 一已中学校3年生がJA施設の見学と大豆の播種を体験・・・5
- 青年部・女性部とJA常勤役員との懇談会を開催・・・6
- 深川市内小中学校や飲食店などに深川産米を寄贈・・・9

令和3年度

「JAきたそらち地域農業応援団」を開催



当JAでは昨年に続き今年も、JAと准組合員との交流の場「JAきたそらち地域農業応援団」を開催し、本年度はJA管内に住む准組合員13名が入団した。

「応援団」は、第29回JA北海道大会で定められた将来ビジョン「北海道550万人と共に創る“力強い農業”と“豊かな魅力ある農村”」に基づいて決議された「食と農でつながるサ

ポーター 550万人づくりの拡充」の一つ「准組合員モニター会議」の実践として、応援団活動における相互交流を通じ、准組合員及び地域住民の管内農業・JAへの理解・共感を深め、地域の活性化や協同組合活動の発展に資することを目的に立ち上げられた。



6月21日に、当JA本所大会議室で応援団員12名が参加し第1回応援団会議が開催された。開会にあたり柏木孝文組合長は、「今年の地域農業応援団では、昨年と同様に准組合員の皆さまと様々な活動をして参りたい。応援団活動を通じて地域農業の発展のために、当JAが行っていることを知って頂いて、准組合員の皆さまからご意見を頂戴し、今後の事業展開を図りたい」と挨拶した。

その後、「食育ソムリエ」の資格を持つ青果部の河原秀昌青果課長から、家庭菜園や食育活動についての講習会が行われた。団員からは、家庭菜園をする際の追肥の仕方など多くの質問が出され、同職員は土づくりやプランター栽培のコツ、肥料の種類や特徴などについて説明を行った。

さらに、深川マイナリー、広域小麦・大豆乾燥調製貯蔵施設、精米施設の見学を行い、普段はなかなか見ることのできない施設内部を見学し、集荷から調製・出荷までのそれぞれの工程で最新鋭の設備と徹底した品質管理が行われていること等に関心が寄せられた。今年度は時季に合わせた活動を5回に分けて行う。

また、6月22日には、この「JAきたそらち 地域農業応援団」の活動が、JAグループ北海道が行う『食と農でつながるサポーターづくり優良事例表彰』の優秀賞に選ばれ、当JA柏木組合長に表彰状が送られた。

総評では、『伝えたいことを正確に伝える対話活動が評価できる』『応援団から意見・提案をもらう場を設け、双方向の関係づくりに好感が持てる』などの評価のほか、『SNS等を活用し、より多くの人に応援団活動を知ってもらい、サポーター獲得に繋がるよう期待します』などのアドバイスをいただいた。



柏木組合長（中央）

空知管内農協組合長会 北会長（右）

JA北海道中央会岩見沢支所 津村支所長（左）

JAきたそらち 種子馬鈴薯圃場の検査



販売部

6月21日と7月2日・16日の3期にわたり、きたそらち種子馬鈴薯生産組合（羽根清組合長、4戸）の組合員圃場における病害虫の検査を実施し、第1期から第3期で抽出された計38筆全てが検査に合格した。

同検査は、健全な種苗を国内の栽培農家へ供給するため、国が定める植物防疫法に基づき農林水産省植物防疫官や関係団体等が種子馬鈴薯のウイルス病等、10種類の病害虫の発生有無を確認する。

7月2日と7月16日の第2期・第3期防疫検査では、多度志地区の同生産組合員圃場4戸を巡回し、農林水産省横浜植物防疫所札幌支所の防疫官1名による抽出検査が行われ、無作為に抽出された圃場計15筆全てが合格した。

農産課の担当職員は、「本年度は干ばつの影響から、生育管理が非常に難しかったが、馬鈴薯圃場周辺の環境整備や生産者、防疫補助員によるウイルス罹病株の抜取、適正な病害虫防除対策等の厳格な栽培管理を行っているため、例年に続き今年も抽出された全筆が合格している。今後の収穫期に向け、生産者とJAが一丸となり防除の徹底やウイルス罹病株の除去等の栽培管理を引き続き行っていく」と話す。

【農産課 辻】



道内市場との現地視察交流会

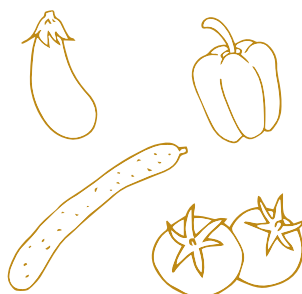
青果部

JAきたそらち青果・花き生産運営協議会（本瀬修二会長）は、7月8日に道内主要市場（4市場）との現地視察交流会を開催した。

例年であれば道外市場も招いての開催ではあるが、昨今の情勢を踏まえ道内4市場を招いての開催となった。

現地視察では、野菜・果実の圃場を全8ヵ所巡回した。JA職員や生産者からは生育状況や出荷状況を説明し、市場担当者からは販売状況等を説明頂く等の意見交換を行い、今後の有利販売に繋げる有意義な交流会となった。

【青果課 川本】





甘みが特徴のスイートコーン 「サニーショコラ」初出荷

青果部

6月28日、甘みが特徴のスイートコーン「サニーショコラ」が初出荷された。きたそらちスイートコーン生産組合（高田浩組合長、15戸）の山田巽さん（北竜地区）が、計6ケース（2Lサイズ5ケース、Lサイズ1ケース）、尾郷勝さん（納内地区）が計13ケース（2Lサイズ9ケース、Lサイズ4ケース）を運び入れた。

初出荷した山田さんは、「今年は低温が続いたが、生育は順調に進んだ。今年も安定した価格を望む」と話す。

同生産組合では今年、約1.8haに作付けし、約1千4百ケースの出荷を見込む。出荷は札幌を中心に、7月下旬をピークに8月下旬まで続く。



初出荷した山田巽さん



尾郷勝さんの父、敏明さん

「北空知の花を、もっと地元の方々に」

北育ち元気村花き生産組合が 各行政へフラワーアレンジメントを寄贈

7月12日、北育ち元気村花き生産組合（田村昌之組合長・妹背牛町）では、地元市民・町民の皆さんに北空知の花をもっと知ってもらい、親しんでもらおうと、各市町村役場へフラワーアレンジメントの寄贈を行った。

北育ち元気村花き生産組合は、JAきたそらち・JA北いぶきの生産者248戸で構成し、スターチスシヌアータを中心に、北空知管内で67.2haを作付け（R2年）、1,477,712千円（R2年産）の販売を誇る全道でもトップクラスの花き生産地である。一方でその約95%が道外市場へ出荷されるなど、全道有数の花き生産地であることが地元にあまり知られていないことなどから、昨年度より、管内の深川市・雨竜町・北竜町・妹背牛町・秩父別町・沼田町の各役場窓口へフラワーアレンジメントを寄贈し、北空知の花のPRと市民・町民の目を癒している。

この日、田村組合長のほか、廣田和也副組合長（一已地区）、坂田輝行一已支部長、内藤敬人音江支部長が深川市役所を訪れ、1階ロビーにフラワーアレンジメントを設置した。

アレンジメントは、内藤音江支部長ほか1名の方で、前日より作業を開始、1地区1時間程度かけ作成した。各地域でメインとなる品種を中心にアレンジメントを行い、深川市ではスターチスシヌアータ、ダリア、スモークツリーなど約10種類の花が使用された。

田村組合長は「昨年から新型コロナウイルスの感染拡大により、花き生産者も見通しが不安ではあったが、今できることに取り組もうと地元行政への寄贈を始めた。一人でも多くの市民・町民の方に見ていただき、知っていただき、地域の花き振興、皆さんへ癒しを提供できれば。」と話された。寄贈を受けた深川市山下貴史市長は、「昨年に引き続き、彩り鮮やかな素晴らしいお花を寄贈いただき生産者の皆様に感謝申し上げたい。全道トップクラスの花き生産地であることを誇らしく思うとともに、生産者の汗が報われる年となるよう、行政もバックアップしていきたい」と述べられた。各行政では、7月16日（金）まで飾られた。



一已中学校3年生がJA施設の見学と大豆の播種を体験

6月14日と15日、また18日と21日、深川市立一已中学校3年生の総合的な学習の時間として、生徒58名が当JAを訪問し、農産物に関する施設見学や大豆の播種作業体験を行い、またJAと食についての講義を受講した。

14日と15日のオリエンテーションでは、柏木孝文組合長が「今回生徒の皆さんに勉強していただくことで、皆さんが目指す将来の姿の一つとして農業やJAを選択肢に入れていただければ嬉しく思う。また農業と農家、JAの応援団になってほしい」と受入挨拶を行った。

JA施設見学では、各施設の担当職員の案内で、深川マイナリーや小麦大豆施設、青果部選果場など計6施設を見学し、それぞれの施設で集荷されている農産物や施設内部の機械等の説明が行われた。

大豆のは種作業では、販売部工藤隆俊考査役による指導のもと、約320㎡の畑に大豆の種子を手植えた。大豆のは種作業を初めて経験する生徒もあり、最初は慣れない手つきだったが、楽しみながら作業を行っている様子だった。作業を終えた生徒からは、「簡単そうだけど意外と難しかった」、「無事に枝豆に育ってほしい」という声も聞こえた。

JAと食についての講義では、農業振興部職員による「JAきたそらちってどんなところ？」や「『食品ロス』削減でSDGsに貢献」と題し、JAきたそらちの仕事や組合員・地域との繋がり、また食べ物が家庭やお店などでどれだけ捨てられているかなどについて説明が行われた。講義を受けた生徒は「改めて食の大切さを学ぶことができた」と感想を述べた。

7月19日には、大豆がよりよく生長するために畑の除草作業を行い、今後は8月に枝豆の収穫を行う予定をしている。



令和3年度

北育ち元気塾第3回研修会 開催

農業
振興部

6月25日、当JA本所にて令和3年度北育ち元気塾の第3回研修会が開催され、塾生15名が出席した。

空知農業改良普及センター北空知支所の職員、酒井紀彰専門主任による「土壌の化学性と肥料」についての講義を受けた後、土壌診断の機械を実際に使用し、pH(水素イオン濃度)とEC(電気伝導度)の測定を行い、「土壌診断に基づいた施肥設計」について塾生は、pHとECの重要性や肥料の成分不足で発生する病気などを確認し、改めて土づくりの大切さを学んだ。

その後、雨竜町へ移動し北海道農業士 永野義典氏より「経営事例の紹介『我が家の経営』」について講話をいただいた。永野氏は道外から新規就農したため、塾生たちに青年部や新規就農者の集まりなどに積極的に参加し横のつながりを大切にしてほしいと話した。

【営農企画課 石野】



青年部・女性部と JA常勤役員との懇談会を開催



7月20日、青年部・女性部とJA常勤役員との懇談会が当JA本所大会議室にて開催され、両部の役員32名とJAから11名の役職員が出席した。

同懇談会は、「第29回JA北海道大会（平成30年開催）」で提起された“新たな協同組合の創造に向けた継続討議”の具体的な実践方策でもある「組合員との対話運動」の一つとして、第3回となる今回は「第30回JA北海道大会（令和3年11月開催予定）」における大会議案から『JA運営の好循環に向けて対話の成果を実践～加速する社会・経済環境の変化への適応～』について意見交換を行った。



懇談会では、JA柏木孝文組合長が開会にあたり、「JAの運営、人づくりやSDGsについて、日ごろ当JAが行っていることだけではなく、今後の農業やJA運営のために青年部・女性部の皆様からご意見をいただきたい」と挨拶した。その後、出席者が4班に分かれて「営農改善に向けたデジタル化の可能性について」や「女性農業者の声をJA運営に反映させる方法について」、「地域住民からの理解・信頼を得るためのSDGs等の貢献について」といった様々なテーマでグループ討議を行った。各班では、「資材をインターネットで注文や在庫状況が確認できるようにしてもらいたい。また、デジタル機械が苦手な方のために講習会を開いて欲しい」、「女性が役員になるのはハードルが高い。若い女性を青年部へ入れて育成したら良いのではないだろうか」、「食農教育は青年部・女性部ともに十分しているが、地域の方にどれだけ伝えられているかも大切。今後は広報誌だけでなくLINE等のSNSを使うなど手段を増やしていくべき」など各グループで活発な議論が行われた。グループ討議の後には各班での討議内容が発表され、スマート農業やデジタル化等も進み、新たな考え方が増えていく中で、今後の課題に対して生産者とJAが手を携えて出来る事についてそれぞれ共有した。

農業用ドローン 実演会開催

農業
振興部

JAきたそらちスマート農業技術研究会（原 聡会長 構成員32名）は、7月13日に農業用ドローン実演会を開催した。

ホクサン株式会社、株式会社WorldLink & Company SkyLink Japan、セイカン株式会社の3社及びホクレンの協力により、現在国内における主流機種を含めた5機種のドローンが今回一堂に会した。各社はそれぞれ自動飛行や軽量、国内最大の容量など、自機のセールスポイントを説明、実際に試験圃場を飛行し、農業に見立てた水を散布した。

近年技術進歩により農薬散布作業などにドローン活用が急速に進んでおり、また複数の機種を一度で見られる機会は多くないため、組合員の関心も高く63名が参加した。組合員は価格、稼働時間や散布面積、耐久性能などを尋ねたり、機体を実際に持ちあげたりし、その重量感などを確かめたりした。

【振興課 廣田】



JAL×JAきたそらち 農業体験開催

7月12日から17日にかけて、JAL（日本航空（株））が昨年新たに導入した、客室乗務員が乗務しつつ、地方創生活動に参加し、地域との絆づくりや活性化を目指し様々な取り組みを行う日本航空客室乗務員からなる「JALふるさと応援隊」の北海道担当4名が、2班に分かれ当JA管内の視察・農業体験に参加した。

今回の取り組みは、「ふるさと応援隊」が人手不足に悩む農業分野で、自ら農業を体験することで地域の課題や農業の魅力を学び、地域の活性化に貢献することを目的としている。

農業体験受け入れに当たり、柏木孝文組合長より「今回はJALとJAの連携による壮大なプロジェクトになる。農業者が普段どのような作業をしているかを体験していただき、また当JA管内の各施設の見学もしていただくことで農産物の集荷や共選、出荷等の一連の流れを知っていただければ」と挨拶した。

1日目は、深川市内選果場及び深川マイナリーなどの農業施設見学のほか、JA営農センター裏にある（株）深川未来ファームにおいてきゅうりの収穫、音江の（株）渡辺農園（渡辺博徳代表取締役）においてさくらんぼの収穫を行った。（株）渡辺農園では深川の街並みが見下ろせる絶景の中で、品種などを教わりながら真っ赤に実ったさくらんぼを頬張った。

その後、1班には幌加内にて「そば日本一の牙城」や「そばの実工房」で、そばの収穫や調製方法、そばの殻をどのようにして剥いているのかなど、実際にむき実やそば殻を見ながら熱心に説明を聞いていた。また、「雪乃御殿」では貯蔵されている大量の雪を見て驚く場面もあった。

2班には、渡辺農園まで同様の視察・体験の他に北竜にて北竜メロン生産組合長高畑克洋氏、ひまわりすいか組合長渡辺俊成氏の圃場へ訪れ、定植から出荷までの説明を質問も交えながら熱心に聞いていた。高畑氏から冷えた2品種のメロンを食べ比べし美味しさの違いを堪能した。



※撮影時のみマスクを外しています。

各班2日目に農福連携に取り組まれている音江の渡邊滋典氏の圃場にてスターチス採花や選花作業を体験した。障がい者の方と一緒に採花作業を行い、選花作業では渡邊氏から下葉処理や選花のポイントを教わりながら作業を行った。また、休憩時間には、お互いの仕事内容や今まで訪れた国の話など楽しげに交流をしている姿が見られた。

今回の農業体験に参加された津幡さんは「地域の方に暖かくお迎えいただき、貴重な体験をすることが出来た。実際に来なければわからない、農業だけでなく地域を守りたいという一人ひとりの熱い思いを感じることが出来た」と話された。

尚、今後は9月に2件の農作業を請負ってもらう予定。

JAきたそらち女性大学 「カレッジあみていえ」2期生第2講を開催



7月5日、JAきたそらち女性大学「カレッジあみていえ」2期生の第2講が開催され受講生11名が参加した。

この日は、「青空ヨガ教室&ランチ会」と題し、札幌でヨガスクールをしている奈良コウスケ氏を講師に迎えヨガを体験した。

今回は青空の下、ヨガを行う予定だったがあいにくの雨により室内での体験となった。

新型コロナウイルスの影響で外出等の自粛によりなまってしまった体や心のリフレッシュになるよう体を動かした。ヨガをしたことがない方が多かったが、終了後は「体が楽になった」「このまま継続すると良さそう」などの声があがった。ヨガについて、肩こりや腰の痛みの解消法などの質問があがり、自宅で簡単にできるヨガを教えていただいた。

ヨガ体験後はマーガレット教会の見学を行い、ヨーグルト専門店「F」の店内に「地域のいいものの販売所」をプロデュースしているしあわせ設計舎 菊島さとみ氏を講師に迎え、「ヨーグルトと発酵」について学んだ。市販のヨーグルトと「F」のギリシャヨーグルトの違いや作り方、美味しい食べ方などを教えていただき、ヨーグルトの基礎を深く学ぶことができた。

第2講より12名の受講生に1名新しいメンバーが入学し第2期生は13名となった。再び自己紹介を行い受講生は「今できることにチャレンジしたく入学しました!」「仲間とともに楽しく2年間学んでいきたいです」など語った。リラックスした雰囲気の中で皆さん楽しそうにお話を交わし親睦を深めていた。

【営農企画課 佐藤】

農業
振興部

JAきたそらち女性部 さくらカレッジ「刃物研ぎ講習会」



6月25日、JAきたそらち女性部さくらカレッジが開催され、26名が参加した。

今回は「刃物研ぎ講習会」と題し、機械工業用刃物や農機具の販売・修理等を行っているカネミツ株式会社 代表取締役 藤谷 智見氏を講師に迎えた。

普段料理や農作業などで使用する包丁やハサミ、あまり使わず手入れをしていない刃物を持ってきていただき、藤谷氏より刃物の研ぎ方・砥石の使い方や保管の仕方について説明を受けた。持ってきていただいた包丁の中には刃が水分や空気中の湿気を吸ってしまい使えなくなっているものや、交換した方がよいハサミの刃などもあり、研ぎ方だけではなく長く使う方法なども知ることができた。

参加した受講者からは「研いでいると自然と角度が変わってしまい難しかった」「今まで使っていた包丁の特徴など知ることができた」「刃物の研ぎ方を知れたのでこれから自宅でメンテナンスができるようになって良かった」などの声があがった。

毎日使う刃物だが、手入れまで行き届かないことが多い。慣れない作業ながらも皆さん楽しく学んでいた。

【営農企画課 佐藤】



深川市農業対策協議会 市内の学校や飲食店などに深川産米を進呈

7月上旬、深川市の生産者や行政、当JAなどの農業関係団体で組織する深川市農業対策協議会（遠藤良明本部長）は、深川市内の学校や保育施設、また飲食店に、「深川産米ななつぼし」と「同産米ふっくりんこパックご飯」計約4トンを進呈した。

同協議会では、農畜産物のPR活動と地産地消の普及を目的に「スローフードフェスタ」を毎年7月下旬に開催しているが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から昨年に続き今年も開催を見送り、コロナ禍でも地元の食材を広く市民にPRする機会を継続し、また地元市民や外出自粛によって影響を受けている飲食店を応援しようとの進呈を企画した。

7月5日には、拓殖大学北海道短期大学や市内の小中学校8か所と保育施設11か所へ、12日には企画の趣旨に賛同した飲食店67店舗へ同協議会員が訪問し進呈した。

拓殖大学を訪問した遠藤本部長は、「貴学の学生には市内の様々な場面で協力いただくことがあり、このコロナ禍で困窮している学生のことを支援しようと早急に企画した。学生の皆さんには、美味しいお米をたくさん食べて元気になっていただきたい」と学生や学務従事者ら456人分のパックご飯を手渡した。受け取った田中英彦副学長は、「学生たちのことを思ってくださり感謝している。学生たちは5月26日までの休学やアルバイトの中止を余儀なくされたため、今回の支援で地域とのつながりを実感している」とお礼の言葉を述べた。

【営農企画課 松本】



雨竜田んぼアート 見頃を迎える

6月17日、青年部雨竜支部（金山勇太支部長、部員25名）16名と、雨竜小学校の6年生17名に加え、北海道日本ハムファイターズの球団マスコット「B・B」とファイターズガール2名が参加し、田植え作業を行った田んぼアートが、現在見頃を迎えている。

田んぼアート13回目を迎えた今年は、日ハムとコラボし、ファイターズのロゴマーク「F」と今年のスローガン「O1Karat★」（イチカラ）などを主食用・観賞用のカラフルな苗を使って表現した。

田んぼアートは雨竜町道の駅「田園の里うりゅう」横の実証展示圃場にあり、一般の方も無料で見学ができる。圃場横にはやぐらも設置されているため、田んぼアートを上から見渡すことができ圧巻の景色を楽しむことができる。



（今年の田んぼアートデザイン）

稚内市で「うりゅう米」のPR販売

6月26日（土）に、稚内市にある相澤食料百貨店にて開催された「あいざわ大創業祭」において、うりゅう米のPRイベントを行った。

今回は雨竜支所営農課職員がガチャガチャを用意し、うりゅう米購入者にハズレなしで、うりゅう米関連の景品が当たる「うりゅう米ガチャガチャ抽選会」をあわせて実施した。

朝8時半から開始し、15時までを予定としていたが、終了前に80個あった景品が全て売り切れる程、好評となった。コロナ禍で、常に除菌をしながら抽選会を実施することとなったが、老若男女様々な方に興味を持って頂き、今までうりゅう米を食べたことがない方や、雨竜町について知らなかった方にも、今回のイベントで直接話をする事で興味を持って購入して頂くことができた。

今後も新型コロナウイルスの感染状況を加味し、北海道の示すガイドラインに則った中でうりゅう米のPR、販売促進を実施していきたい。

【雨竜支所 佐野】



女性部 だより

女性部雨竜支部 家庭菜園講習会

女性部雨竜支部（吉本智子支部長 部員57名）は7月6日、青果部の河原課長を講師に迎え、『家庭菜園講習会～家庭で作る基本野菜の育て方～』を開催し部員27名が参加した。

今回の家庭菜園講習会は2月に開催されたさくらカレッジでも一度行われ、参加された部員からぜひ雨竜支部でも行ってほしいとの声が上がって実現した。

河原課長が、土づくりや畝立て、種まき・肥料、管理ポイントや病害虫の事についてなど、資料を基に春作業の内容から細部まで説明した。

最後には質疑応答が行われ、普段疑問に感じていた事を解決するチャンスに、一人が質問をすると数名の方も頷きながら真剣に話を聞いていた。

【雨竜支所 木村】



女性部幌加内支部
ガーデニング講習会開催

6月26日、JAきたそらち女性部幌加内支部（花岡美智子支部長、部員38名）は昨年に引き続き、旭川市の（株）花pitから渡辺朋恵さん、平中 翔さんを講師に招いて、ガーデニング講習会を開催し、部員17名が参加した。

講習会では10種類以上の植物の中から、それぞれ気に入った苗を4種類選び、好きな鉢植えに植え替えた。部員は、花の色合いや配置などのアドバイスを受けながら完成させた。

当初は、6月5日に開催する予定だったが、「緊急事態宣言」が発令され、延期となっていた。講習会が開催できるか不安ではあったが、当日は天候も良く、部員の中には、子ども連れで参加する方もおり、短い時間ではあったが楽しいひと時を過ごすことが出来た。



【幌加内支所 岩本】


女性部幌加内支部 日帰り研修実施

JAきたそらち女性部幌加内支部（花岡美智子支部長、部員38名）12名は、7月7日に美瑛・富良野方面の日帰り研修をマスク着用や手指の消毒など、新型コロナウイルスの感染防止対策を徹底し、2年ぶりに実施した。

美瑛では「四季彩の丘」でトラクターの「ノロッコ号」に乗って花畑の撮影スポットまで行き集合写真や綺麗な花を観賞した。

花畑の管理は全て人の手で行われていることを聞き、「こんなに広いのに何人で管理されているのだろう」など驚きの声もあがった。

その後、上富良野では「フラワーランド」で押し花プレート作りが行われ、始めは苦戦していたが、皆さん可愛いプレートを作ることが出来た。

帰りの支部長挨拶では、「綺麗なお花も見ることが出来たし、お昼は美味しかったし、体験で押し花プレートも作れて、今日は楽しかったですね。また明日から仕事頑張りましょう」と話された。

【幌加内支所 岩本】



Zoomを使ったリモート融資相談を試験実施

金融
共済部

6月21日（月）より新型コロナウイルス対策の一環として深川市内金融共済支所融資担当者が本所へ在籍し、Zoomを使用したリモートによる相談を試験的に実施している。

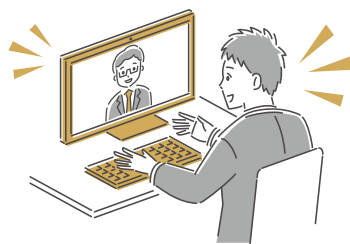
初回は音江支所と本所をオンラインで結び、画面とヘッドホンを使用してお客様との融資相談を行った。

6月30日には、住宅ローンの借入を希望するお客様が音江支所を訪れ、タブレットの前でオンライン相談を行った。画面を通じて、借入内容を聞き取ったり、必要書類を確認するなど約20分程度の相談となった。初めての試みのため、最初は若干ぎこちなさがあったものの徐々に慣れ、書類作成等滞りなく終えることが出来た。

終了後、お客様にはアンケートにご協力して頂いており、対面と大きな遜色はなく概ね好評な意見もある反面、「大切なことなので対面にて相談したい」との意見もあり、今後の課題となりそうだ。

今回の試験については9月上旬まで深川市内各支所において順次行う予定であり、ご不便をおかけすることもあるとは思いますが、ご協力をよろしくお願いいたします。

【融資課 小松】



コンプライアンス研修会を開催

総務部

6月29日、コンプライアンス意識を高めるため全役職員を対象とした「コンプライアンス研修会」を開催した。同研修会は、毎年この時期に実施しており、今年も新型コロナウイルス感染症対策として、各支所や金融共済店舗、給油所などの17拠点をweb会議ツール「Zoom」で結び、リモート形式で実施した。

開会にあたり柏木孝文組合長は、「本研修を通して、ベテラン職員・新人職員問わず、今一度自分を見つめ直し、襟元を正して今後の業務にあたってほしい」と挨拶した。

研修会の講師には、JA北海道中央会岩見沢支所 主幹 林 雄介氏が務め、コンプライアンス遵守について研修を行った。林氏は、1人で現金等を扱う機会を無くすことや、コミュニケーションがあり風通しの良い職場づくりなど、不祥事の未然防止に向けて必要なことをわかりやすく説明した。役職員にとって自分自身を見つめ直す大変良い機会となった。

また総務経理課職員が、個人情報保護の重要性や漏洩等防止と個人情報保護に関する法令違反のリスクについて、基本知識を確認しながら取扱いの注意喚起を行った。



新型コロナウイルス感染症パンデミック下の
花粉症

医療法人社団 本間クリニック 理事長 本間

裕



北海道では3月にハンノキ、4、5月にはシラカバ、5月からカモガヤやチモシーといったイネ科、秋にはキク科のヨモギなどで起こる季節性アレルギー性鼻炎が発生し、一般的には“花粉症”と呼ばれます。鼻水やクシャミ、眼やのどの痒み、咳などに悩まされている方も多いでしょう。花粉症対策としては予防がなにより大切です。窓を開けると外気に混じって室内に花粉が侵入してきますが、やはり屋外で症状が強く出る方が多いです。したがって、外出時にはマスク、ゴーグル（メガネやサングラスでも効果はあります）の着用が効果的です。晴天時など明らかに症状が出そうな日は予防に努めると良いでしょう。昨年からのコロナウイルス感染症のパンデミックにより、外出時のマスク着用が常態化しておりますので、花粉症の予防にも一役買っているものと思われます。

さて、鼻水やくしゃみ、嗅覚障害といった鼻炎症状は新型コロナウイルス感染症でも見られることがあり、花粉症と軽症のコロナウイルス感染症とは見分けが付かないこともあります。またくしゃみは飛沫を大量に発生します。咳に較べて数倍の飛沫が飛ぶとも言われおり、アレルギー性鼻炎とコロナウイルス感染症が併存すると、クシャミによって感染がより拡大する可能性があります。また花粉症では鼻や眼の痒みが強いので無意識にこすってしまうことがあります。コロナウイルスには眼や鼻の粘膜からの接触感染のリスクがあり、アレルギー患者さんは注意すべきです。

花粉症を含めたアレルギー性鼻炎は現状において治癒させることは出来ませんが、適切な診断と治療でかなり良好にコントロールすることができるようになってきました。軽症から重症まで、色々な治療法を単独あるいは組み合わせると、多くの方が満足できる効果が得られます。昨年から続くコロナ禍の現状では、鼻炎や喉の違和感、咳などの症状がある時は外出を控えている方も多いでしょう。このような状況であるからこそ、アレルギーの診断と治療を適切に受けるべきと思われます。花粉症を含めて、鼻水クシャミなどのアレルギー性鼻炎症状でお悩みの方は、ぜひ近隣の医療機関で相談して頂きたいと思います。





石田邦雄の

農業紡ぎ愛

第15回

「人事管理の基本理念」を皆のものに

私が貴JAにおいて人財開発支援アドバイザーという役割を担い、企画のお手伝いや、必要によっては講義などをし足かけ3年目になります。一昨年のサマライ塾を皮切りに、昨年は管理職を対象にした「自分塾」、更には今年度からそれに繋げて一般職員向け。そして新たに「なでしこ塾」も開講をしたところです。また、この間に入組された職員の方々への一連の研修にも関わりながら今を迎えています。こうして人づくりで、何かと手探りの中ではありましたが、ようやく形になり出してきました。願わくばこれらが、各々ぶつ切りのものではなく、有機的に結合し「人育て」に向けた好循環の構図になることを期待してやみません。

ところでこれを進めるベースになっているのが2019年2月に策定された貴JAにおける「人的資源管理基本方針」です。これが組織全体にいきわたり、組合員の皆さんはもとより、職員各人が自らの血と肉になっていったとしたらこんなにすてきなことはありません。これまでの研修においても、何かと強調しているところであり、それを共有化する

の意味で今回はその基本理念を改めて確認しておくことにしましょう。そこでのポイントが3つあります。一つは「考動」です。普段私共がよく使う「行動」とは一線を画し、「自ら考え行動、個を活かし組織力を高める」を主眼にして。その軸になる考え方が「自立主体・信頼」であり、「自ら」が大きなキーワードになります。二つは「共創」です。これも「競争」ではなく、「利他の精神で共に価値を創造すること」をねらいにしています。その考え方として重要になるのが、「謙虚・配慮・情熱」です。これらは組織にとっても、あるいは日頃のより良い人間関係を築く上でも不可欠のものといえます。基本理念におけるもう一つの柱が「共育」です。これも従来の教育とは違い、「共に」育み、「育ち」人間力を高める「ことを意味し、具体的には「自律利他・感謝」を行動の土台にしています。理念はこの3つから成り立っています。これらを実践することにより、JAきたそらちの存在意義を示す経営理念、即ち、「農業振興を通じて地域へ貢献を実現し、互いに「最幸」の働き方・生き方」に結びつけるというもので、私はこれが机上のものではなく、お互いに「自分のもの」とすることができれば、こんなに強い組織はないと思っています。「じんざい」とひと口にいつても様々です。私はよく「じんざいにも5つある」といい、こんな風に説明します。まずは組織にとり「いなくては困る人」…これを「人材」、次には「いてもよい人」…これを「人材」、更には「いてもいなくてもよい人」は「人在」。あと残りの2つを「じんざい」といつてもよいかどうかは疑問もあるところですが、この流れでいうと2つあります。1つは「いなくてもよい人」…これを「人罪」、更にその上をいくのが「いては困る人」…まさに企業にとっては災害に値するかもしれないので「人災」と。となると、組織の一人としては皆が人財を目指したいものです。なお、JAきたそらちではその「人財」を次のように定義づけています。「新しい価値を生み出すことができる人」「新しいやり方を考え出す人」「周辺の人のことを常に考えてやり方を変えることができる人」と。さて、それに照らしてみても、今のあなたはいかがですか？そうしてそのベースにあるのが「人間力」です。互いにより農業協人になる為に日々、多くのものに好奇心を持ち、幅広く磨いていきたいものですね。誰にも負けないあなたらしい「JA魂」を。

【著者】石田邦雄（いしだくにお）氏



1946年北海道新得町生まれ。(有)石田コンサルタントオフィス代表取締役、めでの研究室主宰。国鉄、会計事務所を経て中小企業診断士として独立開業。

現在は社会保険労務士、キャリアコンサルタントとして、組織改革や人材育成に携わる。人と企業のマッチングを目指し、中小企業大学校を初めJAカレッジなど、多くの団体、企業と携わる。「教えるよりも考える」、「学ぶより気づく」を柱に、体験学習を交えたわかり易い研修が特徴。著書に「産業カウンセリング」や「縁を紡ぎ、人を育む」など多数。

JAグループ北海道からのお知らせ



北海道コンサドーレ札幌
栗山トレーナーによる

Vol.3

農作業にも役立つ セルフコンディショニング講座

選手達のコンディショニング、フィジカルトレーニングを担当している栗山トレーナーが、誰でも簡単にトライできる、セルフコンディショニングの方法をご紹介します！スポーツをしている人も、していない人もチャレンジしてみましょう！

北海道コンサドーレ札幌と
JAグループ北海道は
食農パートナーです！

運動前におすすめの 背骨のセルフコンディショニング

今月は運動前におすすめの背骨のセルフコンディショニング方法を紹介します。体幹の安定性と背骨の動きが向上するため、怪我の予防（特に腰痛予防）とパフォーマンスアップを期待できます。アカデミーの選手達も練習前、試合前に必ず実施しているストレッチです。姿勢改善にも効果があります。

毎日続けることでスムーズに背骨を動かすことができるようになります。農作業前や運動前のウォーミングアップに是非とも取り入れてみてください！

※ストレッチで強い痛みが生じる場合はすぐに中止して下さい
※強い痛みが継続する場合は整形外科を受診することをお勧めします

背中丸め・反らし

①～③を、ゆっくり10回繰り返す

① 手は肩の真下、
膝は股関節の真下にして、
四つん這いになる



② おへそをのぞきこむよう
して背骨を丸める



③ 上を見上げるように
して背骨を反らす



背骨ひねり

⑥ 四つん這いから片手を
腋の下に通して、
肩を地面につける



目線は上を見上げる



背骨まわし①

⑤ 肘を引いて胸をひらく



徐々に大きくひらく

④ 四つん這いで
片手を首の後ろに



背骨まわし②

⑦ 片膝立ちになって両手を
前で合わせる



⑧ 胸を開いて背骨をまわす



膝にしっかり体
重をのせる

「協同組合ネット北海道通信」

令和3年6月：JA北海道中央会協同活動推進室

第3号

「協同組合ネット北海道 令和3年度定期総会」を開催

◎令和3年度定期総会を6月7日にWEB形式で開催しました。

総会は、小野寺代表役員(JA北海道中央会代表理事会長)の開会挨拶、鈴木直道北海道知事の祝電メッセージの後、「事業報告」「事業計画」「役員改選」「総会宣言」の4つの議案の審議を行い、全議案承認されました。

総会審議終了後、出席組織の各代表よりそれぞれ意見表明等がなされ、麻田副代表役員(北海道生協連会長理事)の閉会挨拶で終了しました。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により制約はありますが、総会宣言で改めて確認・表明した目的を果たすため事業を展開してまいりますので、ご理解・ご協力をお願いいたします。

○2021年度(令和3年度)事業計画の概要(抜粋)

2021年度(令和3年度) 協同組合ネット北海道 事業計画

I 概 要

世界規模での新型コロナウイルスの感染拡大で、社会システムと日常生活様式が変化する中、世界的にはグローバリズムの拡大で、環境問題・食糧問題・エネルギー問題が大きな課題となっています。

日本社会においては、新自由主義・金融資本主義の浸透で、経済・教育・医療・地域等の格差が拡大し、社会的弱者である高齢者・こども達・一人親家庭へのしわ寄せが顕著となっております。

このような時代の中で、SDGs目標実現に向けて、協同組合による地域社会への貢献や社会的弱者への支援はその重要性がますます高まっております。

協同組合ネット北海道は、設立時に相互確認した行動指針に基づき、引き続き所期の目的を果たすため活動を展開してまいります。

協同組合ネット北海道の2021年度の活動(事業計画)については、

- ① 2020年度の活動が、新型コロナウイルス感染拡大の影響により不十分だったことを考え、2020年度計画踏襲を基本とした計画とします。
- ② 事務局8団体について集計した「2020年度活動のまとめと2021年度計画アンケート」及び「環境問題ヒアリング等で寄せられたSDGs・社会貢献等に対する問題意識や取組計画」も反映した内容とします。

II 基本方針(2020年の基本方針を継承します)

(1) 協同組合ネット北海道の行動指針に基づいた活動を展開します。

特に、3つの連携のキーワード「ゆるやか・あいのり・やってみる」を尊重します。

(2) SDGs推進のプラットフォームとなる“協同組合ネット北海道”づくりに努めます。

(3) あいのり・連携の第1歩となる活動に“誰一人取り残さず”共に踏み出します。

III 活動項目

1. 共通推進テーマ

- (1) 健康で安心して暮らし続けられる地域社会づくりに向けた社会貢献活動
- (2) 地球環境問題への貢献活動
- (3) 災害時における支援活動

2. 個別推進テーマ～協同組合間のパートナーシップを尊重して個別に実践する活動

- (1) 公開講演会の開催
- (2) 内外広報・連携活動
- (3) 協同組合間連携学習講座の開催（協同組合への理解浸透）
- (4) 各組織の個別事業間でのあいのり・連携活動

3. 先進事例の視察

4. 共同研究（勉強会）

- (1) 勉強会（情報交換）
- (2) 各組織主催研修会・研究会への参加

5. 総会・諸会議の開催（総会・幹事会、事務局会議、実務者会議、チーム活動）

- (1) 総会：2021年6月7日開催
- (2) 幹事会：2021年5月24日開催、10月開催予定
- (3) 事務局会議：毎月第2水曜日（基本）開催

○役員の改選 ～ 以下の通り役員が選任されました。

	団体名	役職名	氏名
代表役員	○北海道農業協同組合中央会	代表理事会長	小野寺 俊 幸
副代表 役員	○ホクレン農業協同組合連合会	代表理事会長	篠 原 末 治
	○北海道漁業協同組合連合会	代表理事会長	川 崎 一 好
	○北海道森林組合連合会	代表理事会長	阿 部 徹
	○北海道生活協同組合連合会	会長理事	麻 田 信 二
	○生活協同組合コープさっぽろ	理事長	大 見 英 明
	○北海道労働金庫	理事長	出 村 良 平
	○日本労働者協同組合（ワーカーズコープ） 連合会センター事業団北海道事業本部	北海道事業本部長	平 本 哲 男
役員	○北海道信用農業協同組合連合会	経営管理委員会会長	佐 藤 彰
	○北海道厚生農業協同組合連合会	代表理事会長	中 瀬 省
	○全国共済農業協同組合連合会北海道本部	運営委員会会長	中 瀬 省
	○北海道信用漁業協同組合連合会	代表理事会長	深 山 和 彦
	○こくみん共済 coop 北海道推進本部	本部長	大 出 彰 良
	○生活協同組合連合会大学生協事業連合	北海道地区運営委員長	小助川 誠
	○一般財団法人 北海道報徳社	代表理事社長	小野寺 俊 幸
	○北海道大学大学院農学研究院	院長	西 邑 隆 徳



○2021年度定期総会 宣言

「協同組合ネット北海道」の行動指針である“ゆるやか”“あいのり”“やってみる”を踏まえ、道内16団体が連携して、地域の課題解決に共同で取り組むことを構成団体の総意として、表明するものであります。

協同組合ネット北海道 2021年定期総会 宣言

グローバル化の進展のなかで、環境問題や地球温暖化、貧困・飢餓等の課題が深刻化しており、行き過ぎた新自由主義により経済・教育・医療・社会生活等の格差が拡大し、大きな社会課題となっています。併せて、新型コロナウイルスの世界的感染拡大が一向に収まらず、経済・社会生活にも大きな影を落とした状況下にある、社会的弱者である高齢者や子ども、一人親家庭へのしわ寄せが顕著となっております。

2016年に「協同組合の思想と実践」がユネスコの無形文化遺産の登録を受け、さらには、誰一人取り残さず持続可能な社会づくりに向けたSDGsの取り組みの役割を果たすべくステークホルダーとして明記されるなど、協同組合の役割が大きく期待されており、多くの協同組合が手を結び、地域社会から信頼される協同組合運動を展開すべき時であると考えます。

「協同組合ネット北海道」は、昨年6月17日の設立以来、コロナ禍の影響で研修会・学習会等の活動の延期・中止を余儀なくされながらも、事務局・運営体制を確立し、会員相互の理解と私たちが果たすべき役割について論議を図って参りました。

「協同組合ネット北海道」を構成する私たちは、“ゆるやか・あいのり・やってみる”の行動指針を踏まえ、SDGs推進のプラットフォームとなる“協同組合ネット北海道”づくりに努めるためここに、構成団体の総意にもとづき次の決意を表明しその実現を期します。

記

- (1) 単一の協同組合では解決できない課題について、複数の協同組合による連携の解決策を掲げ、持続可能な北海道経済と地域住民の生活向上に寄与することを目指します。
- (2) 協同組合への大きな期待は、地域社会の課題解決に関わる活動・事業にあることを再認識し、社会貢献活動を実践します。
- (3) 協同組合が地域の課題解決と安心できる豊かな生活に無くてはならない組織であることの理解を得るため、協同組合の役割と価値、活動内容を地域住民に積極的に発信します。

以上、宣言する。

2021年(令和3年)6月7日

2021年度「協同組合ネット北海道」定期総会



「協同組合ネット北海道 ロゴマークを制定

- 協同組合ネット北海道の設立1周年を期して、組織の内外に組織運営・活動の情報発信の象徴としてロゴマークを作成しました。
- ロゴマークの意味は、「道内の複数の協同組合等が連携し、SDGsの目標に向けて、単一の協同組合では解決できない地域の課題を協同で取り組み、持続可能な地域社会の創造に寄与することを目指す。」ことを表現したものです。
- ロゴマークのベースは、JCAのロゴマークを踏まえ、北海道の協同組合等の連携を表しました。



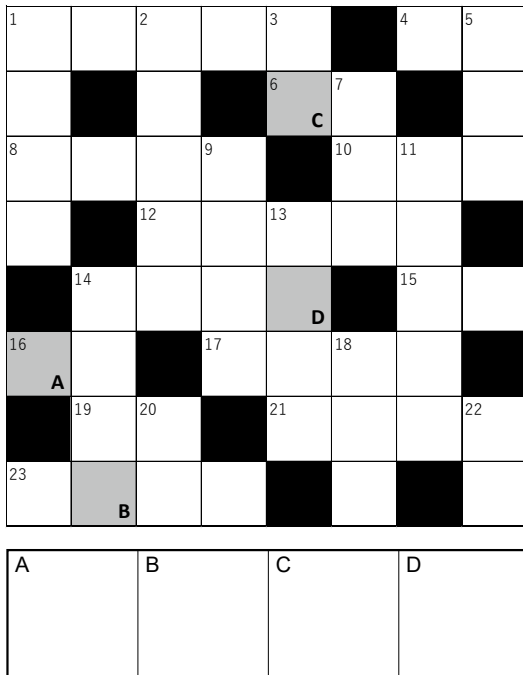
＊構成18団体は、北海道農業協同組合中央会、北海道信用農業協同組合連合会、ホクレン農業協同組合連合会、北海道厚生農業協同組合連合会、全国共済農業協同組合連合会北海道本部、北海道漁業協同組合連合会、北海道信用漁業協同組合連合会、北海道森林組合連合会、北海道生活協同組合連合会、生活協同組合コープさっぽろ、生活協同組合連合会大学生協事業連合、北海道労働金庫、ワーカーズコープ連合会センター事業団北海道事業本部、こくみん共済coop北海道推進本部、北海道報徳社、北海道大学大学院農学研究院、北海道農業ジャーナリストの会(オブザーバー)、日本協同組合連携機構(オブザーバー)で構成。

(太字の組織は、事務局8団体)



クロスワードクイズ

提供元:クロスワード.jp



6月号の正解は

「ケッコン」でした。

正解者の中から抽選で3名が選ばれました。

深川市 日当 真実 様
深川市 岡田 幸子 様
深川市 滑川 敏恵 様

【タテのカギ】

- 1 一度。ひとたび
- 2 心の中で感じていること。心
中の思い
- 3 いがいがのとげで包まれている木の実
- 5 ある場所から物が動かないようにすること。
- 7 紙を切って絵を完成させる作品
- 9 西洋のやり方や様式。「○○○
○トイレ」
- 11 米の生産量が多い、インドシナ
半島にある国
- 13 店などで物品を並べて置くこと
「○○○○棚」
- 14 文字ではなく口で伝えること
- 18 何の目的にも使われてない土地
- 20 違った意見。異論
- 22 うすく平たい形をしたもの。木
を平たく切ったもの

【ヨコのカギ】

- 1 食べ物を食べたり、飲み物を飲
んだりすること
- 4 軟体動物。8本の足があり、吸
盤がついている動物
- 6 便利な器具・機械。「文明の○○」
- 8 恋仲の女性。彼氏⇄○○○○
- 10 物事の意味や理屈が分かること。
人の気持ちを知ること
- 12 小学校入学前の幼児のための教
育機関
- 14 沢山の人が隊列を組んで進むこと
- 15 主に男性が使う一人称。特に幼
い男の子が使う
- 16 封筒・容器・出入り口などを閉
じてふさぐこと
- 17 切れ具合
- 19 わからないことをたずねること。
問題。「○○合わせ」
- 21 人との交流、交際。「仕事の○
○○○」
- 23 敵の攻撃などを防ぎ守ること

応募方法

正解者の中から抽選で3名様に農協全国商品券をプレゼント。ホームページ応募フォーム・ハガキ・FAXで①クイズの答え②住所、氏名、年齢③身近な出来事④農協だよりに対するご意見ご要望を記入の上ご応募下さい。

締切8月30日消印有効で当選者とクイズの答えは令和3年10月号に掲載します。

【送り先】〒074-0022 深川市北光町1丁目10番10号

JAきたそらち総合企画室企画広報課

FAXの場合は 0164-22-8611

【ホームページ応募フォーム】URL: http://www.ja-kitasorachi.com/application_form/

※ご本人以外による応募は抽選の対象外とさせていただきます。

七月俳句

●雨電俳句会

独活の香や山のせせらぎ見え隠れ
風死して傾くまに風見鶏
洗顔のあと涼風の集まりし
登山靴磨いてみたけど山遠し
青田風浴びてひと息一家族
色褪せて尚も現役蠅叩き
澄みきったかつこうの声に腰伸ばし

●「道」俳句会 北電支部

開拓を助け廃線やおじぎ草
蜘蛛の囀の主にと声朝戸引く
脈拍のみだれ沖繩慰霊の日
この辛さ老化防止や夏大根
遺伝子の哀しきまでに薔薇の赤
ごまだれで冷やし中華の夕の膳
世を拗ねてねじ花密と咲きにけり
待ちわびて折ったたんで白日傘

●土筆俳句会

缶ジュースふって飲み干す夏の果て
薔薇を剪る日曜休みの大工さん
浴衣着て髪束ねるや待ち合わせ
年順に起きる夫の背明け易し
花の王生きる牡丹に迷い無し
増毛道先人拓く遠き道
夏の夕美味しい煙とはしゃぐ声
立ち寄りし海の家にてイカを焼く
滴りや杖の歩歌う里の森

有田 茉莉
大林 アヤ子
北川 満江
小山 邦男
松本 五月
宮武 めぐみ
吉見 サヨ子
山本 玲子
山岸 正俊
吉尾 広子
山下 好晴
阿部 れい子
中島 雅子
宮脇 美和子
佐藤 美智子
高尾 美津子
池田 美知
山川 輝子
南川 富美子
佐藤 英三子
滝口 富美子
菅原 優子
森田 裕美子
小橋 厚子

第7回理事会〈令和3年6月30日開催〉以下の事項について決議・承認されました

1. 関係団体等諸会議について
2. 財務報告及び事業実績について
3. 固定資産の修繕について
4. JAバンク基本方針に基づく「体制整備モニタリングの報告」について
5. 反社会的勢力認定結果について
6. 令和3年度 上半期決算実地棚卸 理事並びに監事立会計画について
7. 職員の人事及び業務事故について
8. 貸出金の貸付報告について
9. 米・水田をめぐる情勢と今後の対応について
10. 深川市新規就農等受入協議会の設立について
11. JAL×JAきたそらちとの連携（農作業体験）の取組みについて
12. 令和3年度 主要農作物の生育概況について
13. 令和3年度 JA 検査員配置体制と米集荷繁忙期人員体制について

14. 令和3年産米 作付面積・出荷契約・特定米穀予約申込状況について
15. 輸出用米のとりまとめ結果について
16. 令和3年産 畑作物作付状況について
17. 令和3年産 小麦取扱いについて
18. 令和3年産 玄そば出荷契約数量について
19. 畜産物の販売実績について
20. 平成30年産 北竜もち米最終精算及び令和2年産 規格外大麦・裸麦、小麦最終精算について
21. 青果・花き集荷販売実績について
22. 令和3年 温床資材予約奨励金の支払いについて
23. 令和3年度 肥料価格の設定について
24. 令和4年 肥料及び温床資材予約推進について
25. 経済部事業実績について
26. 組合員の加入脱退について

- 議案第1号 組合員の出資金持分譲渡について
 議案第2号 職制規程の変更について
 議案第3号 固定資産の取得について
 議案第4号 固定資産の処分について
 議案第5号 貸出金の貸付決定について

- 議案第6号 理事に対する貸出事前承認について
 議案第7号 信用事業方法書の一部変更について
 議案第8号 令和3年度 土地改良事業実施に伴う入札業者の選定について

退職者

大変お疲れ様でした
 (令和3年6月30日付)

金融共済部渉外課 安藤 理沙

組合員の動き

(令和3年6月末日)

		当期首	加入	脱退	当月末
正組合員	個人	1,339	11	27	1,323
	団体	91	3	0	94
准組合員	個人	5,703	41	23	5,721
	団体	274	1	0	275
正組合員戸数		959	4	20	943



JAきたそらち太陽光発電所 発電実績

○令和3年6月実績

○累計 (R2.12~R3.6)

発電電力 **72,526kWh**

発電電力 **295,796kWh**

計画対比 + 21,697kWh

計画対比 + 60,426kWh

前年対比 + 25,194kWh

前年対比 △ 11,307kWh

金融共済部 共済課からのお知らせ

JA共済

資金活用プランのご案内

計画的な相続対策のために

このプランの
加入年齢は
0歳～90歳

一時払終身共済 (平28.10)

死亡共済金等の非課税枠の活用等計画的な相続対策のために

【ご契約例】60歳男性 一時払 (500万円) **514万円**

共済掛金 500万円 → 死亡共済金 514万円

一生にわたって、おくなりになられたときの保障が確保できます。

死亡共済金を相続対策にご活用いただけます。

医師による診査は必要なく、簡単な告知でお申込みいただけます。

死亡のとき 死亡共済金 **514万円**

※死亡共済金は、死亡時点を切替で受取。

※死亡共済金は、50万円から10万円単位で設定できるもの。

将来の介護のために

このプランの
加入年齢は
40歳～75歳

一時払介護共済

誰もが無関心ではない「介護」。長生き＆マイナス金利時代の「介護」への備えは、「お金の置き場所を変える」だけ!!

1 誰の介護で決める介護 2-5に設定されたとき

2 JA共済独自の基準の介護認定状況になったとき

【ご契約例】60歳男性 一時払 (500万円) **540万円**

介護共済 500万円 → 介護共済金 540万円

介護共済金は、介護認定状況により、おくなりになられたときの保障が確保できます。

死亡共済金 500万円 → 介護共済金 540万円

一定の介護費用(所得や課税等)がある場合、介護保険給付の負担額が大きくなることを心配ですか?

介護保険給付を利用した場合にかかる「任意費や負担金」は、以下の要件に該当した場合、負担軽減の対象となります。

① 介護費用が1,000万円を超える場合、負担軽減の対象となる場合。

② 介護費用が1,000万円を超える場合、負担軽減の対象となる場合。

このプラン等には介護費用が1,000万円を超える場合、負担軽減の対象となる場合。

詳しくは、厚生労働省のホームページ等でご確認ください。

万一の保障に積立をプラス

終身共済

万一の場合の生命保障に加え、将来に備えた資金づくりにもご活用いただけるプランです! JA共済でかしこく準備しませんか?

【ご契約例】60歳男性 / 65歳払込終了 共済金額500万円 全期前納 / 口座振替払い (令和3年4月現在)

60歳 男性 **4,573,610円**

全期前納共済掛金

60歳 455円 → 65歳 466円 → 70歳 475円

万一のとき **500万円**

一生保障

死亡・高度要介護状態・第1順位後継者の保障が一生継続します。

将来に備えた資金づくりにもご活用いただけます。

一定の年齢になると共済掛金積立金が払込共済掛金を上回ります。

ライフイベントに合わせた計画に

このプランの
加入年齢は
0歳～70歳

15年プラン

養老生命共済

お子さまやお孫さまの万一保障を確保しつつ、将来に向けた資金づくりが可能です!

万一保障 満期共済金 節税効果

【ご契約例】60歳女性 / 共済期間15年 / 共済金額500万円 / 全期前納 / 口座振替払い (令和3年4月現在)

60歳 女性 **4,955,304円** → **5,000,000円**

満期共済金は、500万円以上から設定OK! (10万円単位で)

15年以上から設定OK (5年未満は、全期前納の場合)

毎年の生命保険料控除の対象

満期共済金は、500万円以上から設定OK! (10万円単位で)

節税効果 6,800円の節税に!

お子さまやお孫さまの未来に確実な備えを

こども共済

こども共済 高い貯蓄性 万一の備え

大学準備プラン

払込共済掛金総額 **4,700,513円**

給付率 **106.3%**

お受取総額 **500万円**

約 **29万円**

全期前納プラン

22歳満期プラン

こども共済 学資準備(基本型) 大学プラン 共済金額500万円 全期前納 / 口座振替払い 共済掛金払込先給付金受取期間

人生100年時代の資産形成

ライフロード

人生100年時代の老後にむけた資産形成に JAの「予定利率変動型年金共済」がお役に立ちます!

年金受取総額(70歳から10年間の受取額合計)

払込共済掛金 500万円 60歳男性

予定利率 0.50% → **518万円** 満期 18万円

予定利率 1.00% → **541万円** 満期 41万円

【ご契約例】定期年金タイプ / 60歳男性 / 払込終了年齢65歳 年金受取開始年齢70歳 / 年金支払期間10年 共済掛金(年払い)100万円(払込共済掛金累計額500万円) 当分の間の予定利率0.50% / 9年目以降の予定利率0.50% (8歳4歳4歳)

この資料の記載のお取扱いについては、令和3年1月現在現在の法令等にもとづくものです。この資料は概要を説明したものです。ご検討にあたっては、「重要事項説明書(契約概要)」をご覧ください。ご契約の際は、「重要事項説明書(注意喚起情報)」および「ご契約のしおり・約款」を必ずご覧ください。

お問い合わせは JAきたそらち

本所 TEL 0164-22-6619 多摩支所 TEL 0164-27-2111

香江支所 TEL 0164-25-1111 南電支所 TEL 0125-77-2331

深川支所 TEL 0164-22-2171 北電支所 TEL 0164-34-2280

納内支所 TEL 0164-24-2211 横内支所 TEL 0165-35-2024

21010504036

発行 / きたそらち農業協同組合 〒074-0022 北海道深川市北光町1丁目10番10号 TEL 0164 (22) 6600 FAX 0164 (22) 8611
http://www.ja-kitasorachi.com 編集 / 総合企画室企画広報課 印刷 / 株式会社 須田製版